

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	からあ		
○保護者評価実施期間	R8年3月20日		～ R8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R8年3月20日		～ R8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	R8年4月10日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援スペースが広く、天井も高いため、開放感のある安全な環境で支援を行うことができる。また、静養室とは別に学習スペースやクールダウン用の個室を確保しており、児童の状態に応じた環境調整が可能である。	活動内容に応じて空間を使い分け、集団活動・個別支援・クールダウンを適切に切り替えることで、児童の情緒の安定と集中しやすい環境づくりを行っている。	各スペースの活用方法を職員間で共有・標準化するとともに、視覚支援や構造化を取り入れ、より児童一人ひとりに適した環境設定を強化していく。
2	個別支援および少人数での対応が可能であり、一人ひとりの発達段階や特性に応じたきめ細やかな支援を提供できる体制が整っている。	個別支援と小集団活動を組み合わせ、子どもの特性や課題に応じた関わりを行っている。また、個々のペースを大切にしながら、安心して取り組める環境づくりを意識している。	個別支援計画との連動をより強化し、支援の目的やねらいを明確化することで、より効果的な療育につなげていく。また、職員間で支援方法を共有し、質の向上を図る。
3	児童一人ひとりの発達段階に応じた支援を行っており、無理のないステップで成長を促すことができる。	発達段階や特性を丁寧にアセスメントし、スモールステップで課題設定を行っている。また、成功体験を積み重ねることで、自己肯定感の向上につながる関わりを意識している	発達評価の精度を高めるとともに、専門職との連携を強化し、より根拠に基づいた支援の提供を行っていく。また、支援内容の共有を徹底し、一貫性のある療育を実施する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画の短期・長期目標が、日々の支援に十分に生かされていない。	目標と具体的な支援内容との結びつきが弱く、職員間での共有や理解に差がある。	個別支援計画の目標を具体的な支援行動に落とし込み、職員間で共有・確認する機会を設ける。また、記録やミーティングを通じて支援の振り返りを行い、一貫性のある支援につなげていく。
2	ペアレントトレーニング等の家族支援の実施が十分にできていない。	日々の療育支援を優先する中で、家族支援に特化したプログラムの実施体制が整っていない。	ペアレントトレーニングの導入に向けた検討を進めるとともに、モニタリングや面談の機会を活用し、家庭での関わり方について助言を行うなど、段階的に家族支援の充実を図る。
3	保育所等訪問支援の実施が十分にできていない。場合がある。	訪問先との連携体制の構築や調整に時間を要しており、実施まで至っていない。	関係機関との連携強化を図り、訪問支援の必要性や役割について丁寧に説明を行う。また、実施体制を整備し、計画的に保育所等訪問支援を実施できるよう取り組む。